

山形大学 男女共同参画報告書

令和3年度男女共同参画に係るアンケート結果報告
令和3年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

山形大学 男女共同参画報告書

令和3年度男女共同参画に係るアンケート結果報告
令和3年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

目次

ご挨拶 山形大学長	04
ご挨拶 山形大学理事・副学長／男女共同参画推進室長	05

I. 山形大学独自の取組

① 第2次男女共同参画基本計画に基づく行動計画と推進組織

①-1 目的・基本方針・令和3年度具体的施策（行動計画）	06
①-2 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事	10
①-3 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事	14
①-4 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事	18
①-5 男女共同参画推進室活動記録	19

② 活動報告

②-1 意識改革	
(1) 山形大学男女共同参画セミナー	21
(2) 学長・学部長と女性研究者との懇談会等	22
(3) 新任者と語るワークライフバランス懇談会	23
(4) 小白川キャンパス男女共同参画研修会（連携）	24
(5) 女性研究者の集い	25
②-2 仕事と育児等との両立支援	
(1) 各種保育利用料補助制度	26
(2) 研究継続支援員制度	27
(3) 学会参加時の保育・介護支援制度	28
(4) 女性管理職支援	28
(5) 女性研究者へのノートパソコン貸出し	29
(6) 保育所利用状況（入所者数）	30
②-3 女性研究者の裾野拡大	
(1) 女性研究者裾野拡大セミナー	31
(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク	33
(3) 女子中高生理系進路選択支援事業	34
(4) 令和3年度基盤共通教育・ジェンダー関連授業	36
(5) フレックス大学院・キャリア就職活動セミナー	37
②-4 女性研究者の研究力向上	
(1) 女性・若手研究者研究交流会	38
(2) SDGsカフェ	39

②-5 学生生活への支援	
(1) 多様な性に関するガイドライン	40
(2) 生理の貧困	42
②-6 ダイバーシティ事業3機関との連携	
(1) 連携	43
(2) 事後評価面接審査	43
②-7 アウトリーチ活動	44
②-8 広報活動	46

Ⅱ. 令和3年度男女共同参画に係るアンケート結果報告

① 実施概要	
①-1 調査方法	47
② 調査結果	
②-1 回答者のプロフィール	53
②-2 ライフについて	58
②-3 ワークについて	67
②-4 ワーク・ライフ・バランスについて	76
②-5 男女共同参画およびダイバーシティについて	82
②-6 取組みの周知度と今後必要な支援	96
②-7 まとめと今後の課題	105
③ 資料	
③-1 調査票	115
③-2 自由回答	124
③-3 基礎集計表	137

Ⅲ. 資料編

① 山形大学の男女別教員数と女性割合	169
② 山形大学の女性活躍推進法に基づく行動計画	170
③ 山形大学の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画	171

ご挨拶



玉 手 英 利

山形大学 学長

男女共同参画推進の取組の報告書発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

山形大学には3つの使命、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」があります。人口減少や国際競争の激化など、社会が直面する多くの課題のみならず、人類社会の諸問題を解決するため、豊かな人間性と問題解決能力を高める「教育」、革新的技術や新たな思想を生み出す「研究」を推進して、社会の持続的発展に貢献していきます。

令和3年は、昨年から引き続き新型コロナウイルスの度重なる感染拡大に見舞われた一年となりました。そのような状況でも、人類の英知により、ワクチンや治療薬の研究開発が進み、この危機を乗り越えようとしています。また、全世界的に、持続可能な社会の創造に向けた人々の意識の高まりと産業界の技術革新が進んだ年でもありました。そのような意識の高まりを受けて、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の17の目標それぞれについて、各国も様々な方策を打ち出しています。本学でも地域と連携しながらSDGsの取組を積極的に推進し、社会の持続的な発展に貢献しています。SDGsの目標の一つである「ジェンダー平等を実現しよう」は分野横断的に重要な位置付けであり、本学の使命を果たしていく上でも男女共同参画及びダイバーシティの推進は極めて重要だと考えています。

山形大学は、平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進し、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ってきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）」（平成27～令和2年度）の採択を経て、研究や就業環境の整備を行ってきました。令和2年に第2次山形大学男女共同参画基本計画（計画期間は令和2年度から令和11年度までの10年間）が施行され、今年度はその2年目にあたります。第2次基本計画には、これらの成果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、基本方針及び具体的施策が掲げられています。大きな取組として、平成20年から継続している男女共同参画アンケートについて第7回目の調査を実施しました。本アンケートによって、継続した定点分析による評価とたゆまぬ改善がなされ、それらが本学の男女共同参画推進の原動力になっています。実際に、第6回の結果を第2次基本計画の策定の基礎資料として活用いたしました。また、ダイバーシティの視点から「多様な性に関するガイドライン」リーフレットを作成し、学生へ配布することにより「多様な性」に関する理解の促進及び意識の啓発を行いました。

令和2年度末に終了した「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の取組の今後一層の推進のために、今年度初めに連携機関との協定締結を行いました。これにより、今後も大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学及び本学の三者連携によるダイバーシティ研究環境推進のための活動が継続されることとなりました。また、全国ダイバーシティネットワーク組織の南東北地区担当幹事大学として、引き続き研修会の企画実施などにより、地域のダイバーシティ推進に寄与しています。

今後も、学長自ら先頭に立ち、第2次基本計画に基づき、本学の学生及び職員が性別、性的指向や性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮できる大学を目指すとともに、他大学や地域社会とネットワークを充実させ、男女共同参画及びダイバーシティを積極的に推進してまいります。関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

ご挨拶



花 輪 公 雄

山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長

常日頃、男女共同参画推進室（以下、推進室）の事業に対し、ご理解とご協力をいただき、誠に有難うございます。ここに、令和3年度「山形大学男女共同参画報告書」をお届けします。

この一年、新型コロナウイルス感染症の影響により、推進室の事業も様々な工夫を必要としました。男女共同参画フェスタは中止としましたが、全国ダイバーシティネットワーク南東北会議も兼ねた男女共同参画セミナー（オンライン開催）や会議などを実施し、全体的にほぼ予定通りの活動を行うことができたものと考えております。

今年度は、第2次山形大学男女共同参画基本計画の2年目です。計画に基づき、推進委員会では各キャンパスの年度計画や推進室の具体的な取組を検討し、それに沿って事業を展開しました。事業のいくつかを以下にご紹介します。

『教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正』では、女性教員比率や女性管理職比率についての目標を設定し、全学的に採用や人材育成に力を注いでいただいています。『教育・研究及び就労と家庭生活の環境作りの推進』では、ワーク・ライフ・バランスに関し、情報共有を目的に話し合いの場を設定しました。まず、キャンパスごとの「女性研究者との懇談会」では推進室の取組全般を説明し、活動や制度についてご理解いただく機会としました。また、「新任者と語るワークライフバランス オンラインミーティング」では、日頃の業務の中で感じていることを話し合いました。人と人との関係性が薄くなりつつある日常において、この取組はとても有意義であったという感想が参加者からあり、推進室の取組が風通しのよい働きやすい環境づくりにつながったと考えています。また、拡充した「各種支援制度」についても、確実に実施できるよう各キャンパスとの連携を行いました。また、生理の貧困問題を取り上げ、学生が安心して生活できる一助として「生理用品の無償配布」を実施しました。さらに、女性研究者の情報共有の場や相談の場として「女性研究者の集い」を新たに実施しました。

推進室では、令和2年度末に策定した「山形大学における多様な性に関するガイドライン」を年度初めに新生全員に配布するとともに、各キャンパスと情報を共有してきました。推進室では相談があった場合の対応等について研修を重ねてきました。本学は、個々の性別、性的指向・性自認等にかかわらず、学生と教職員がお互いを認め、受け入れることができる組織を目指しており、今後も各キャンパスと情報共有しながら推進していきます。

さて、本学では、定期的に男女共同参画アンケートを実施し、その結果をその時々男女共同参画を推進する原動力としてきました。昨年7月には第7回アンケートを行い、そのまとめを本報告書に記載しました。結果に基づき、教職員一人ひとりが充実した毎日を過ごすことができるよう、なお一層本学の男女共同参画ならびにダイバーシティを推進していきます。

平成27年に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」は、昨年度が最終年度でした。この1月には事後評価面接審査を受け、年度末には最終評価が示されることになっています。事業は終了しましたが今後も活動を継続できるよう、本学、大日本印刷株式会社研究開発センター、米沢栄養大学の3者間で改めて協定を結びました。今後も連携した活動を進めていきます。

10年計画である第2次山形大学男女共同参画基本計画の達成のためには、全教職員のご理解とご協力が必須です。さらなるご協力をお願いします。